

# クロミノウグイスカグラの地理的分布と倍数性調査

宮下 朋美<sup>1)</sup>・星野洋一郎<sup>1),2)</sup>

- 1).北海道大学環境科学院生物圏科学専攻耕地圏環境学コース  
2).北海道大学北方生物圏フィールド科学センター



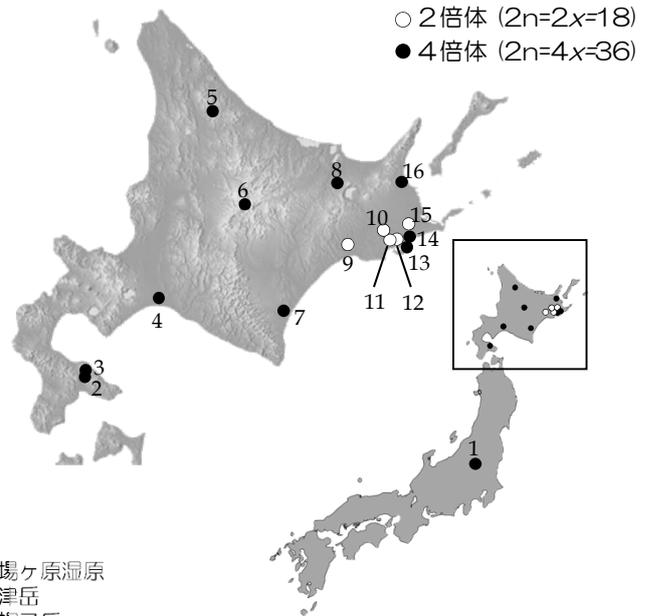
クロミノウグイスカグラは北方地域の有用な植物資源である。ユーラシア大陸から北アメリカ北部の寒冷な地域にかけて自生する小果樹で、北海道ではハスカップとよばれ栄養源となる野生植物として古くから利用されてきた。現在は北海道の特産果樹としてお菓子やジャムなどの材料に用いられている。

日本では北海道に広く分布するほか、本州の寒冷地に自生することが知られているが、その遺伝的多様性についてはほとんど分かっていない。そこで、日本に自生するクロミノウグイスカグラの遺伝的多様性について倍数性の観点から調査を行った。

## 別寒辺牛湿原におけるクロミノウグイスカグラの採取地点



## 日本におけるクロミノウグイスカグラの分布と倍数性



1. 戦場ヶ原湿原
2. 横津岳
3. 烏帽子岳
4. 勇払原野
5. ピヤシリ山
6. 大雪山
7. 大樹
8. 美幌峠
9. 釧路湿原
- 10-12. 別寒辺牛湿原
- 13-14. 霧多布湿原
15. 別海
16. 標津湿原

フローサイトメーターおよび染色体数の調査から、国内には2倍体と4倍体が存在することが分かった。2倍体は道東に位置する釧路湿原、別寒辺牛湿原および霧多布湿原に分布し、道内のその他の地域および本州の栃木県日光市戦場ヶ原湿原の個体は4倍体だった。2倍体はごく限定した地域に分布し、4倍体は広い地域に分布することが分かった。

## 4倍体個体群間のDNA含量の変異

4倍体は個体群間のDNA含量に変異があることが分かった。

### 4倍体集団間におけるDNA含量の変異

